

令和7年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会 ・ 柏税務署

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

人生を共にする税

我孫子市立我孫子中学校 第3学年 藤田 泰介

私たちの生活は税が無ければ成り立たないと僕は思う。飛鳥時代の租調庸に始まり、現在に至るまで税は形を変えて私たちの歴史と共に歩んできた。時に税は人々の負担となり、時に税は人々の助けとなってきた。現代の税はたして私たちに豊かな生活をもたらしているのだろうか。

現在の日本には様々な税の仕組みがある。個人や企業は国や地方公共団体に多くの税を納めている。それらの税金は、公共の福祉として私たちの生活に役立てられている。たとえば、インフラを整備したり、社会保障に役立てられたりしている。家から一歩だけ外に出てみると、税によって成り立っているものが多く見つかるのではないだろうか。今、あなたが立っている道路、街を走る救急車、遠くから聞こえる中学校のチャイム。それらは全て税によって成り立っているのである。私たちの生活に税が大きく関わっているのが見えてきたのではないだろうか。一方で、税は歳費にも使われている。歳費というのは簡単に言えば国会議員の給与である。歳費に税金を使うことは悪いことではないと思う。しかし、近年話題になった国会議員の裏金問題など国民の税金によって生きている国会議員が国民の信頼を失うことは絶

対にあってはならないと思う。この機会に国会議員だけでなく税のあり方についても考えていきたい。

また、税は収入や家計からその金額に適した分だけ納めるといった方式がとられている。代表的なものに所得にかかる税である所得税がある。所得税には、所得の多い人には税率が高く、所得の少ない人には税率が低くなる累進課税の方法が採られているという。この方法により、全ての人のとって税の負担が公正になるようにされている。では、消費税はどうだろうか。消費税は一九八九年に税率三%で導入され、現在は税率が十%になり、多くの家計を圧迫している。そして、消費税の大きな特徴として、生きていく上で必要な食品や生活用品、電気、水道、ガスなどのライフラインなど、ほとんど全ての物に税がかかることだ。その税率は所得の多い人も少ない人も全く同じである。物価高の今、所得の少ない人は、この消費税の仕組みの中、税率の中で生きていくことはできるのか。税の負担は全ての人にとって平等といえるのだろうか。

他にも、国や地方公共団体の財政にはこんな課題もあるのではないだろうか。公債である。現在の日本には多くの国の借金である、国債があり、年々増え続けている。その国債を返すために増税をする。国民の生活が苦しくなる。いつかは財政が苦しくなり、国債が増える。そんな連鎖になる前に、課題の解決を求められる。

今回述べた税の利点、課題はほんの一例である。人生を共にする税について今、考えてみてはどうだろうか。

